

## 2024 年度 事業報告

(2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)

### 1. 食物アレルギーに関する研究開発支援事業

#### (1) 2023 年度公募型研究助成事業の完了

2023 年度に実施した食物アレルギーに関する予防、診断、治療、対応食品等の研究開発に関する研究助成事業（共同研究 5 件・3,000 万円、個人研究 15 件・2,900 万円、期間：2023 年 4 月～2024 年 3 月）を完了した。研究成果報告書を纏め、当財団 Web 上での掲載及び冊子で公開するとともに、研究成果報告会を開催した。

##### 《研究成果報告会》

開催日：2024 年 10 月 10 日

場所：AP 品川アネックス(東京都港区)

開催形式：口頭報告会（共同研究報告）

ポスター報告会（個人研究報告）

参加者数：約 80 名

内容：全課題の報告会を完全対面形式で開催した。研究成果の普及はもちろん、問題解決にあたる様々な立場の有志が一堂に会し、問題解決に向けた交流と議論を深める場となった。また、過去の助成先の研究成果（ $\omega$ -5 グリアジン欠損食用小麦（しまね夢こむぎ®））で作ったお菓子の試食提供を行い、会場全体で社会実装の具体例を共有した。

#### (2) 2024 年度公募型研究助成事業の実施

食物アレルギーに関する科学技術の振興・促進を図り、当該分野の医療や食環境の改善に寄与することを目的とした研究助成事業において、2024 年度の助成先として採択された研究課題に対して以下の通り研究助成を実施した。

##### 《助成先等》

助成件数：22 件（共同研究 6 件、個人研究 16 件）

助成総額：6,278 万円（共同研究 3,137 万円、個人研究 3,141 万円）

助成先：別表 1 に記載

助成期間：2024 年 4 月～2025 年 3 月

特記事項：2025 年度中に研究成果報告書の作成と公開（財団 Web サイトへの掲載、冊子の作成、成果報告会の開催）を行う。

### (3) 2025 年度公募型研究助成事業の推進

2025 年度公募型研究助成事業を推進し、公募、審査、助成先の決定を行った。

#### ア 主要日程

- ・ 2025 年度研究助成募集要項の策定（2024 年 6 月）  
研究助成委員会で提言のあった審査方法等に関する改善内容も考慮し策定した。
- ・ 公募（2024 年 7 月 12 日～9 月 30 日）
- ・ 第 1 回研究助成審査委員会（2024 年 10 月 16 日）
- ・ 第 2 回研究助成審査委員会（2024 年 12 月 13 日）
- ・ 助成先の決定（理事会決議：2025 年 2 月 1 日）
- ・ 通知（2025 年 2 月）
- ・ 覚書締結（2025 年 3 月）

#### イ 助成先等

- ・ 受理総数：43 件（共同研究 22 件、個人研究 21 件）
- ・ 助成件数：21 件（共同研究 6 件、個人研究 15 件）
- ・ 助成総額：6,181 万円（共同研究 3,540 万円、個人研究 2,641 万円）
- ・ 助成先：別表 2に記載
- ・ 助成期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

### (4) 学会等を通じた学術振興支援及び情報発信

財団の事業に有益な研究や行政動向に関する情報収集とともに、財団のパブリックリレーション活動の一環として、以下の学会や展示会に参加し、講演、展示または広告掲載等を行った。

医学関係：日本小児臨床アレルギー学会、日本小児アレルギー学会、食物アレルギー研究会

食品関係：日本栄養・食糧学会、ifiaJAPAN、日本食品化学学会、日本食品科学工学会、日本調理科学会、日本食品免疫学会、日本農芸化学会

栄養士関係：日本栄養改善学会

また、以下の 3 件の共催セミナーを実施した。

#### 《日本栄養・食糧学会》

実施日：2024 年 5 月 25 日

形式：現地対面形式

共催：第 78 回日本栄養・食糧学会大会

演題：食物アレルギーの基礎研究から社会実装への展開 -ω-5 グリアジン欠損食用

小麦の開発-

演 者：森田 栄伸 先生（島根大学名誉教授）

聴講者：約 100 名

《日本栄養改善学会》

実施日：2024 年 9 月 7 日

形 式：現地対面形式

共 催：第 71 回日本栄養改善学会学術総会

テーマ：食物アレルギーの視点からみた大規模災害への備えと対応～栄養と医学の立場から～

演題 1：災害時の食と栄養

演 者：坪山（笠岡） 宜代 先生（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 国際栄養情報センター 国際災害栄養研究室 室長）

演題 2：災害時のアレルギー患者支援

演 者：緒方 美佳 先生（熊本大学大学院生命科学研究部 特任助教）

聴講者：約 300 名

《食物アレルギー研究会》

実施日：2025 年 2 月 9 日

形 式：現地対面形式とオンデマンド配信

共 催：第 25 回食物アレルギー研究会

演 題：災害における食物アレルギー患者の対応と備え -能登半島地震での経験を踏まえて-

演 者：小林 茂俊 先生（帝京大学 医学部 小児科・アレルギーセンター 教授）

聴講者：184 名（現地参加者数）

上記は研究成果の広報と災害時対応に絞って企画した。前者は模範例として研究ストーリーを聴講者（研究者）に届けることに成功した。後者は聴講者に災害時栄養の最新情報と被災経験の情報を基にした説得力のある情報を届けることができた。また、聴講者には主題に関係の深い食品（研究成果（しまね夢こむぎ®）で作ったお菓子またはローリングストックに便利な食物アレルギー対応のお菓子）を配布し、研究開発の意義を体感いただいた。

## 2. 食物アレルギーと向き合う人々の QOL 維持・向上を目指した啓発・支援活動

### (1) 「第 10 回食物アレルギー対応食 料理コンテスト」事業の実施

食物アレルギーに向き合う方の健全で豊かな食生活に寄与するために、食物アレルギーに配慮した創作型料理（アレルゲン除去食、代替食）を公募し、専門家で構成する審査委員会で優良作品を選考するコンテスト事業を継続実施した。当事業は、家庭等で工夫された料理

技術の伝承、食物アレルギーに関する意識喚起、教育機会の創出等を目的としている。

昨年度に続き、レシピ応募手続きは完全オンライン化とし、「食事部門」と「おやつ・デザート部門」の2部門に分けて募集。なお、「卵、乳、小麦いずれも使用しない」という応募条件に変更はない。

#### ア 主要日程と受賞数等

- ・2024年度募集要項の策定（2024年6月）
- ・公募（2024年7月1日～10月10日）
- ・第1回審査委員会（2024年11月1日）
- ・第2回審査委員会（2025年2月12日）
- ・受賞作品の決定（理事会決議：2025年2月27日）
  
- ・応募総数：417件
- ・事務局による一次審査通過数：100件（両部門合計）
- ・審査委員会（書類選考）による二次審査通過数：20件（両部門合計）
- ・審査委員会（試食審査）による最終審査結果：

最優秀賞	各部門それぞれ1件
優秀賞	各部門それぞれ1件
審査委員特別賞	食事部門3件、おやつ・デザート部門5件
入賞	食事部門3件、おやつ・デザート部門5件
- ・後援：厚生労働省、消費者庁、農林水産省
- ・運営協力：女子栄養大学出版部

なお、審査委員特別賞では、それぞれのレシピが持つ特長を表彰状に明記した。

受賞作品名は別表3に記載

#### イ 受賞作品の情報公開及び表彰式の開催

第10回コンテストの表彰式（2025年3月16日）

審査委員特別賞以上の12組及び来賓（農林水産省および消費者庁を含む）を合わせて約90名規模で開催し、受賞の栄誉を称えた。昨年度に引き続いて行った立食形式の受賞記念交流会では、コンテスト受賞作品（過年度含む4品）と市販加工食品で作った食物アレルギー対応料理も提供し、レシピへの想いや食物アレルギー対応の未来について情報交流が行われた。なお、受賞作品のレシピ、調理法（動画）のWeb上での公開、レシピ集の作成などは2025年度に行い、成果物の普及活動に取り組む予定である。

#### ウ 優れた作品の再発見プランの遂行

過去の一次通過作品から優れた作品を再発見する計画は完遂に至らなかった。今後は既に公開している作品を実食できる機会を増やすことに注力する。

## (2) 食物アレルギーセミナーの実施

### ア 栄養士、食従事者向けセミナーの開催

栄養士や食従事者を主な対象として、食物アレルギーに関する診断・治療・栄養指導・事故予防等に関するセミナーを2会場で行った。その内一回をハイブリッド形式、もう一回を体験型イベントの併設を特徴とする完全現地形式とした。体験型イベントとして行った「食物アレルギー対応食 料理コンテスト」受賞作品3品の試食会は極めて好評であった。

ハイブリッド形式で行った神戸会場では、基調講演として藤田医科大学 客員教授の宇理須厚雄先生から「食物アレルギー 家庭と園・学校での対応」をお話いただいた。完全現地形式とした佐賀会場では基調講演として藤田医科大学 医学部 小児科 教授の近藤康人先生に「ひやりはっと体験から学ぶ食物アレルギー初期対応」をお話いただいた。別府大学 栄養科学部の高松伸枝教授には両会場にて「食物アレルギー栄養食事指導のポイント」を解説いただいた。また、講演後の座談会（質疑応答）は、聴講者が日常現場で抱えている課題に関して、先生とともに解決するという趣旨で実施し有意義な会となった。

2会場での参加者数は629名であった。オンラインと現地形式のそれぞれの利点を改めて確認できたことはもちろん、昨年度から取り入れた「エピペン講習」により、食物アレルギー対応の理解を深めることに成功した。なお、今年度も継続して、(公社)日本栄養士会の「生涯教育認定制度」の運用（受講者の単位取得）を実施した。

#### 《開催日程》

神戸会場 : 2024年9月23日（外部講師：宇理須厚雄先生、高松伸枝先生）

佐賀会場 : 2024年11月24日（外部講師：近藤康人先生、高松伸枝先生）

#### 《開催形式》

神戸会場 : ハイブリッド形式、佐賀会場 : 完全対面形式

#### 《運営協力》

女子栄養大学出版部

### イ 食物アレルギーセミナーの開催

食物アレルギーのある乳幼児・小児を取り巻く全ての方を対象として、食物アレルギーに係る基礎知識及び対応方法に関するセミナーをハイブリッド形式で実施し、427名に参加いただいた。会場では「食物アレルギー対応食 料理コンテスト」の受賞作品を含むお弁当を提供し、講演の1枠はそのお弁当を食べながら聴講する「ランチ付きセミナー」とした。食物アレルギーの学びの場としてはもちろん、食物アレルギー対応食の提供方法を考える機会の提供に成功した。

基調講演として、同志社女子大学名誉教授の伊藤節子先生より「乳幼児食物アレルギーの基礎知識と給食対応のポイント」を、講演として地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター 小児科 主任部長の亀田誠先生から「保育所・こども園での食物アレルギー対応」を、ランチ付きセミナーとして特定非営利活動法人 千葉アレルギーネットワーク 副理事長の桐谷利恵先生から「アレルギー疾患の患者さんのための災害への備えと対

応」をお話いただいた。基礎知識からエピソード講習、さらには被災地において被災経験と支援経験の両方を持つ方からの臨場感あふれる講演は極めて好評であった。また、講演後の座談会（質疑応答）は、日々、判断に困っている内容の相談が相次ぎ、問題解決の場となった。

#### 《開催日程》

会場：2024年12月1日（外部講師：伊藤 節子 先生、亀田 誠 先生、桐谷 利恵 先生）

### (3) 団体活動支援助成の実施

#### ア 一般型

全国の市民、民間団体等が行う食物アレルギーに係る問題解決を目指す諸活動（教育、調査研究、啓発物の作成等）を支援する目的で助成事業を行った。公募制により課題を募集し、理事会にて審査基準に基づき、公益性、実現可能性、社会への波及効果等を評価し、助成の可否決定を行った。

#### 主要日程と助成先

- ・ 公募                    第一期：2024年4月1日～4月22日  
                              第二期：2024年7月26日～9月2日
- ・ 助成先の決定        第一期：2024年5月16日、第二期：2024年10月3日
- ・ 助成期間            第一期：2024年7月1日～2025年3月31日  
                              第二期：2024年11月1日～2025年6月30日
  
- ・ 助成件数：10件（第一期・8件、第二期・2件）
- ・ 助成総額：716万円
- ・ 助 成 先：別表4に記載

#### イ 緊急支援型

国民の安全・安心な生活に影響を及ぼすような非常災害や非常事態等において、主として食物アレルギーをはじめとするアレルギー疾患をお持ちの方（要配慮者）に必要とされる救援活動を支援するための助成制度を継続して設定した。

助成先は別表5に記載

## 3. 地域社会、産業と連携した食物アレルギーの環境改善に向けた取組み

### (1) 事業成果物の普及活動の推進

#### ア 啓発物の普及

2015年度に制作し全国の小学校、公立図書館に寄贈した「食物アレルギー」を主題にした啓発本「食物アレルギーのひみつ」について、年間4回のプレゼントキャンペーンを実施した。また、小冊子については、主催セミナー、各種の講演会等にて配布した。

## イ 料理コンテスト事業における入賞作品のレシピ等成果物の普及

### (ア) 受賞レシピ及び料理動画

コンテスト受賞作品の社会での活用を目的に、レシピを普及する活動を推進した。第9回コンテスト受賞作品の料理動画を作成し、当財団のWebサイト上で無料公開を行った。公開した料理動画は、第1～9回コンテストを合計して182品となった。また、第9回コンテスト受賞作品のレシピ集を作成し、セミナー等で配布した。

### (イ) 成果物の普及に関する企画

当財団が主催する栄養士、食従事者向けセミナーおよび食物アレルギーセミナーにおいて「食物アレルギー対応食 料理コンテスト」の受賞作品を試食提供し、参加者に好評を得た。また、同コンテストの第10回の表彰式の中で行った受賞記念交流会において、当該回の受賞作品と同時に過年度の受賞作品を試食提供し、認知と利活用拡大を行った。

## (2) 行政等のソーシャルセクターとの連携（厚生労働省等）

### ア 情報発信

厚生労働省の補助事業として（一社）日本アレルギー学会が運営するアレルギー情報ポータルサイト（アレルギーポータル）に当財団の制作物や主催セミナー情報を継続的に掲載いただいている。

### イ 制作活動

消費者庁が行った「外食・中食における食物アレルギーに関する情報提供の取組の推進のための啓発動画（実践編）」の作成に専務理事がアドバイザー（全7名）として参画し、協働した。今後は本啓発資材等を用いた周知、広報を行っていく。

## (3) 社会と連携した教育活動の支援、専門知識を有す食従事者養成を目的とする活動の支援

当財団の食物アレルギーセミナーが、（公社）日本栄養士会が主催する「食物アレルギー分野管理栄養士・栄養士認定制度」の資格更新単位認定セミナーとなっている。

食品素材展示会、教職員研修会（学校単位または市町村単位）および調理師養成校等の教育機関から依頼を受け、食物アレルギーに関する基礎知識、栄養指導等の最新情報、エピソードレーニング等の講義を実施した。

## 4. 財団の認知度や理解向上のための取り組み

### (1) Webサイトを活用した情報発信

財団の広報、情報公開における有用なツールであるため、コンテンツの充足、刷新に努めた。情報更新とともに、これまで積み重ねた情報の整理と改良を行い、視認性の向上を図った。

## (2) 学会その他を活用した財団紹介

新聞等の媒体の活用、学会等での展示、各種講演等により財団の認知、知名度の向上を図った。事業の節目で、メッセージ性を判断して、5回のニュースリリースを実施。多数の記事掲載実績を得た。また、日本調理科学会誌 Vol. 57 No. 3(2024)に「食物アレルギーの基礎知識と社会的対応」についてまとめた内容を寄稿した。

## 5. 財団運営

(1) 公益法人運営の基本原則（遵法、情報開示、ガバナンス）を重視した健全運営を継続すべく、機関決定及び業務執行を行った。

機関運営を別表6に記載

(2) 運営に万全を期すために、継続して外部ブレイン（税理士法人、司法書士、公益法人協会、助成財団センター等）を活用した。

(3) 事業成果が社会に与えるインパクトや影響に関する評価とフォローアップを継続実施した。

(4) 寄附文化の醸成を目指した全国的な啓発活動に参加し、寄附金募集の広報を継続した。

以上

別表1 2024年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成(6件)】

	課題名	所属機関・氏名	共同研究者所属機関・氏名
1	野菜摂取と学童期の食物アレルギー：腸内細菌を含む網羅的コホート研究	龍谷大学 農学部 食品栄養学科 小児保健栄養学研究室 教授 楠 隆	栄養・病理学研究所 代表 塚原 隆充 兵庫医科大学 臨床疫学 助教 武内 治郎
2	重症果物およびナッツ類アレルギー診断における GRP の有用性	藤田医科大学ばんだね病院 小児科 教授 近藤 康人	京都女子大学名誉教授 成田 宏史 京都女子大学 家政学部 教授 門間 敬子
3	食物アレルギーの治療における D-アミノ酸含有ビオチニル化ペプチドの有用性の検証	宮城学院女子大学 生活科学部 食品栄養学科 教授 佐藤 陽	富山大院薬 准教授 歌 大介 医療創生大薬 助教 大平 慎
4	小麦アレルギー予防経口酵素剤の高効能化を実現する、第二世代グルテン分解酵素の創生	京都府立大学 生命理工情報学部 准教授 田中 俊一	立命館大学 生命科学部 教授 松村 浩由 京都府立大学 農学食科学部 講師 田代 有里
5	ポリフェノール代謝物による樹状細胞遊走調節を介した食物アレルギーの制御	近畿大学 理工学部 准教授 早坂 晴子	島根大学 教授 室田 佳恵子 岡山大学 准教授 中村 俊之
6	食物蛋白誘発胃腸症 (FPIES) 患者の尿中脂質バイオマーカーの探索	国立成育医療研究センター・アレルギーセンター 室長 山本 貴和子	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授 村田 幸久

【個人研究助成(16件)】

	課題名	所属機関・氏名
1	水溶性食物繊維 (イヌリン) を用いた重症心身障がい児の腸内細菌叢改善によるアレルギー予防戦略の開発	関西医科大学 医学部 小児科学講座 講師 赤川 翔平
2	IgE 交差抗原による食物アレルギーの病態解明と予防法開発	順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター 特任助教 貝谷 綾子

3	獣肉アレルギーとセツキシマブ過敏症の関連性に関する前向きな検討及びセツキシマブ過敏症のスクリーニング法の考案	高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 (博士課程) 医学専攻 医療学コース 臨床腫瘍学 (臨床腫瘍専門医) 大学院生 佐藤 拓弥
4	ペクチンアレルギーにおけるカシューナッツアレルギーとの関連の解明と診断方法の開発	国立病院機構三重病院 小児科/アレルギー科 医師 高瀬 貴文
5	上皮細胞傷害性を示すナノ粒子が皮膚感作と食物アレルギーに及ぼす影響の解析と予防対策の創出	大阪大学大学院薬学研究科 准教授 武村 直紀
6	胃食道逆流を背景とした牛乳アレルギーモデルマウスの感作初期の自然免疫の解明	名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 助教 谷田 寿志
7	アニサキスアレルギー患者のアニサキスアレルギーコンポーネントと病態の解析	兵庫医科大学 医学部 糖尿病内分泌・免疫内科 助教 田村 誠朗
8	状態の異なる鶏卵アレルギーのアレルゲン性の解析	名古屋学芸大学 助手 内藤 宙大
9	アレルギー性を基盤とした IgE 受容体の脱感作メカニズムの解明と食物アレルギー治療への応用	金沢大学 医薬保健研究域薬学系 助教 長田 夕佳
10	食物アレルギーによる骨減少と多価不飽和脂肪酸による制御	愛知淑徳大学 准教授 西澤 早紀子
11	成人に持ち越した小児発症食物アレルギー患者の社会的自立度に関する実態調査: Web を介した population-based study	独立行政法人国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 臨床研究推進部長 福富 友馬
12	種々の環境物質への対策を通じた経皮感作食物アレルギー予防の可能性	京都府立医科大学大学院医学研究科 免疫内科学 病院助教 藤岡 数記
13	食物アレルギーに対する舌下免疫療法の予防効果と作用機序の解明	宮崎大学 医学部 医学科 感染症学講座 免疫学分野 助教 三苦 修也
14	超重症牛乳アレルギー患者に対する極微量牛乳経口負荷試験が耐性誘導に与える有効性を検証する前向き観察研究	昭和大学 医学部 小児科学講座 助教 山下 恒聖
15	小児牛乳アレルギー患者における重症化メカニズム解明とビタミンD併用による新規経口免疫療法の開発	千葉大学医学部附属病院 小児科 助教 山本 健

16	低アレルギー化食用 1BS-18 小麦系統を利用した安全性の高い小麦アレルギーの減感作療法の開発	広島大学大学院医系科学研究科（薬） 准教授 横大路智治
----	--	--------------------------------

※50 音順、敬称略、所属等は 2024 年 4 月時点

別表 2 2025 年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成（6 件）】

	課題名	所属機関・氏名	共同研究者所属機関・氏名
1	高深度プロテオーム解析技術を用いた食物蛋白誘発胃腸症（FPIES）における好中球活性化機序の解明	千葉大学大学院医学研究院 総合医科学 特任准教授 井上 祐三朗	かずさ DNA 研究所 ユニット リーダー 川島 祐介 東海大学 小児科学 教授 山田 佳之
2	野菜摂取と学童期の食物アレルギー：腸内細菌を含む網羅的コホート研究	龍谷大学 農学部 食品栄養 学科 小児保健栄養学研究室 教授 楠 隆	栄養・病理学研究所 代表 塚原隆充 奈良県立医科大学臨床研究セ ンター 講師 武内 治郎
3	アレルギー親和性に着目した IgE 受容体制御の分子基盤の解明と不応答誘導抗体の開発	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 鈴木 亮	名古屋市立大学医薬学総合研 究院（薬学） 教授 平嶋 尚英
4	ピーナッツ由来ナノ粒子・アジュバント搭載 DNA ハイドロゲルの皮内投与によるピーナッツアレルギーの発症予防	東京理科大学 薬学部 教授 西川 元也	京都大学 化学研究所 教授 上杉 志成 東京大学医科学研究所 教授 石井 健
5	好酸球性消化管疾患の食事療法、非即時型食物アレルギー対応食品の認定条件設定のための研究	国立成育医療研究センター研 究所 好酸球性消化管疾患研 究室 室長 野村 伊知郎	東京大学 定量生命科学研究 所 免疫・感染制御分野 教授 新藏 礼子 国立成育医療研究センター 栄養管理部 室長 宮本 佳世子
6	乳児湿疹からアトピー性皮膚炎への進展と食物感作予測のための腸内・皮膚環境因子バイオマーカー探索	学校法人慶應義塾 慶応義塾 大学先端生命科学研究所 特任教授 福田 真嗣	産婦人科小児科三井病院 副 医院長 三井 直也 内野産婦人科外科小児科 医師 小峰 由美子 千葉大学予防医学センター

			特任教授 下条 直樹 千葉大学医学部附属病院 特任講師 宮地 秀明 千葉大学 医学部 小児科 助教 中野 泰至 秋田大学大学院医学系研究科 教授 河野 通浩 名古屋大学大学院医学系研究 科 教授 秋山 真志
--	--	--	---

【個人研究助成(15件)】

	課題名	所属機関・氏名
1	腸内細菌叢に着目した「卵黄による食物蛋白誘発胃腸炎症候群 (FPIES)」の病因解明と新規予防・治療戦略の開発	関西医科大学医学部小児科学講座 講師 赤川 翔平
2	シングルセルシーケンスを用いたアレルギー患者における特異的B細胞受容体の特定とそのB細胞の変異過程の解明	香川大学バイオインフォマティクス解析センター 特命助教 石川 昌和
3	食物アレルギー発症に関与しうる母乳免疫細胞の存在と機能の解明	九州大学 生体防御医学研究所 免疫遺伝学分野 助教 國村 和史
4	レジリエンスで未来をつなぐ：食物アレルギー児とその保護者の Quality of life 向上を目指した疾患理解と支援策の開発	昭和大学 医学部 小児科学講座 助教 関 沙和
5	経口免疫療法後の運動誘発症状の機序に関する検討	あいち小児保健医療総合センター 医長 高里 良宏
6	食物経口負荷試験後の適切な摂取量および頻度の検討	独立行政法人 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 臨床研究推進部 疫学統計研究室 室長 高橋 亨平
7	末梢感覚神経による食物アレルギーの症状誘発制御機構の解明	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 流動研究員 溜 雅人
8	母乳と牛乳間のタンパク質の交差抗原性の解析	名古屋学芸大学 管理栄養学部 助教 内藤 宙大

9	臓器連関に着目した花粉食物アレルギー症候群の重症化予防の検討	酪農学園大学 獣医学群 獣医学類 講師 中村 達朗
10	機械学習を用いた食物経口負荷試験結果予測モデルの作成	近畿大学病院 小児科 初期研修医 廣瀬 卓
11	粘膜組織樹状細胞の免疫寛容原性維持機構の解明と新規食物アレルギー予防法の開発	宮崎大学 医学部 医学科 感染症学講座免疫学分野 助教 深谷 知宏
12	デザイナー細胞外小胞を用いた食物アレルギーの予防・治療法の創出	摂南大学 薬学部 講師 松田 将也
13	ピーナッツアレルギーマウスの経口療法における治療効果の検討	浜松医科大学医学部附属病院 周産母子センター 診療助教 松永 真由美
14	牛乳アレルギー患者が安全かつ効果的に乳製品を摂取可能とする食事導入指導法の開発	神奈川県立こども医療センター アレルギー科 有給研修医 松本 由里香
15	卵黄による食物タンパク誘発胃腸症の新規バイオマーカーの探索	国立病院機構三重病院 臨床研究部 研究員 山田 慎吾

※50音順、敬称略、所属等は2025年4月時点

別表3 第10回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品一覧

【一般の部(8件)】

受賞名	作品名	グループ名/氏名/ ニックネーム/	所属	都道府 県
最優秀賞	秋鮭のオンザ豆乳味噌チャウダー ～香り、味、食感の三重奏～	フォルツアシモタン/ 竹中 玄翔 さん 片山 太斗 さん 大橋 貴則 さん	下関短期大学	山口県
優秀賞	畑のお肉たっぷり！とろとろ鮭クリームコロッケ	井上 春花 さん	実践女子大学 生活科学部 食生活科学科 管理栄養士専攻	東京都
審査委員特別賞 (アレンジ広がるレシピ)	から揚げ粉でケーキサレ！ 家族で楽しめる簡単おかずケーキ	喜多野ゼミ/ 住井 奏美 さん 喜多野 宣子 さん	大阪国際大学 人間科学部 人間健康科学科	大阪府

審査委員特別賞 (意外な材料レシピ)	赤みそキーマに合うんは? チーズとプレーンどっちが好きナン?	宮前つばさ幼稚園 給食室/ 土師 夏歌 さん 三杉 真紀子 さん 芦高 智子 さん	社会福祉法人 博光福祉会 幼保連携型認定こども園 宮前つばさ幼稚園	大阪府
審査委員特別賞 (手軽に楽しく作ろうレシピ)	米粉のポン・デ・ポテト	テフアンドフラワー/ 安部 心 さん 植村 航大 さん 岡崎 怜登 さん 田畝 雫 さん 竹田 歩 さん 濱田 京介 さん 星野 陵斗 さん 鈴木 勇真 さん	山形県立置賜農業高等学校	山形県
入賞	もちっと白玉えびのちらし寿司	中村 心露 さん		千葉県
入賞	新食感!!ジーマミー豆腐風～シークワサー出汁と共に～	岩城 育海 さん		大阪府
入賞	塩ういろうのホットサンド	チーム GAKUSEN/ 古山 美江 さん 熊崎 稔子 さん 大森 有希乃 さん 山崎 華穂 さん 伊藤 未紗 さん 本間 蝶 さん	愛知学泉短期大学	愛知県

【おやつ・デザート部門 (12件)】

受賞名	作品名	グループ名/氏名/ニックネーム/	所属	都道府県
最優秀賞	とろサクさん	梶の母娘/ 梶 恵美 さん 梶 みさき さん 梶 あかり さん 梶 ゆきの さん		北海道
優秀賞	ベリーのチョコクリスマスケーキ	あいちのハンバーガー/ 井上 和泉 さん 青井 蓮佳 さん 梶本 安未 さん 辻村 朱音 さん 濱島 彩乃 さん	名古屋学芸大学	愛知県
審査委員特別賞 (アイデアレシピ)	気持ちもアゲアゲ～♪ ～油揚げアップルアマ ン～	小池 香織 さん		埼玉県
審査委員特別賞 (お手軽レシピ)	みんな一緒にドーナッ ツ食べよう	伊藤 久美・管理栄養士 /伊藤 久美 さん		三重県
審査委員特別賞 (ユニークな材 料レシピ)	ラブ&ムース	相河 勇輔 さん	山梨秀峰調理師 専門学校	山梨県
審査委員特別賞 (アートなレシ ピ)	豆乳チーズタルトの天 ノ川仕立て	Milky Way/ 湯野 明佳季 さん 江崎 璃渚 さん	福岡第一高等学 校 普通科 製菓 コース	福岡県
審査委員特別賞 (意外な組み合 わせレシピ)	しっとり♪さっくり♪ みんなにっこりお芋と あんこで笑顔のマアム	宮前つばさ幼稚園 給食室/ 土師 夏歌 さん 三杉 真紀子 さん 芦高 智子 さん	社会福祉法人 博光福祉会 幼保連携型認定 こども園 宮前つばさ幼稚 園	大阪府
入賞	冷やしても～っちモチ モチ♡みんなで食べられ る新和菓子	小池 香織 さん		埼玉県

入賞	心も体もよろこんぶ！ 海藻入りにんじんケー キ	尾崎 仁菜 さん	新渡戸文化短期 大学 食物栄養 学科	埼玉県
入賞	もちっとポテポンドリ ング	田中 志奈 さん	大手前大学 健康栄養学部 基礎栄養学ゼミ	大阪府
入賞	マルデレモン	れもれも♪/ 石原 千津子 さん 渥美 善貴 さん 井上 南梨 さん 滝澤 緩奈 さん 渡邊 愛加 さん	名古屋学芸大学 管理栄養学部	愛知県
入賞	バナナでもっちり！米 粉カヌレ	山梨秀峰調理師専門学 校調理師科/ 高野 みか さん 五味 萌 さん	山梨秀峰調理師 専門学校	山梨県

※所属は2025年3月時点

別表4 2024年度 団体活動支援助成課題一覧

【第一期（8件）】

	企画活動名	団体名	代表者名
1	アレルギーの子どもたちを支える専門職を 支援する事業 （食物アレルギー対応研修会と啓発の推 進、能登半島地震被災地への支援）	特定非営利活動法人アレルギー を考える母の会	園部 まり子
2	LFA アレルギーっ子寺子屋～守らないキャ ンプ～ in 関東	LFA 食物アレルギーと共に生 きる会	大森 真友子
3	食物アレルギーサインプレートの普及と学 習漫画ポスターによるアレルギー啓発	NPO 法人ピアサポート F. A. cafe	角野 菜里子
4	第9回ふくおか食物アレルギー攻略法講座 （講演会） －発症予防・治療の最前線－	特定非営利活動法人福岡食物 アレルギーネットワーク	柴田 瑠美子

5	第7回小児アレルギースキルアップコース (Pediatric Allergy Skill Up Course, PASCO 2024)	一般社団法人 日本小児アレルギー学会	福家 辰樹
6	第42回 喘息・アレルギー児サマーキャンプ	群馬小児喘息・アレルギー親の会	伊藤 愛
7	「守られる子ども」から「権利行為主体としての子ども」による事業「どれみ隊」展開プロジェクト	特定非営利活動法人 FaSoLabo 京都	楠 隆
8	宮城県全域の学校・保育関係者、消防職員を対象とした食物アレルギー出張研修会	一般社団法人 医療人材の育成を推進する会	荒田 悠太郎

【第二期 (2件)】

	企画活動名	団体名	代表者名
1	学童保育指導員・放課後児童クラブ支援員のための「アレルギー対応のてびき」新版の制作・出版および普及事業	認定特定非営利活動法人アレルギー支援ネットワーク	坂本 龍雄
2	食物アレルギー情報共有企画	大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル『Smile・Smile』	田野 成美

※企画活動名の50音順、敬称略

別表5 2023年～2024年度 災害時等における救援活動支援助成課題一覧

【2024年2月5日から2024年9月20日 (1件)】

	激甚災害名	団体名	代表者名
1	令和6年能登半島地震	認定特定非営利活動法人アレルギー支援ネットワーク	坂本 龍雄

※敬称略

別表6 2024年度 機関運営

	日付	会議名	主な議題
1	5月16日	第1回理事会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度計算書類・事業報告の承認</li> <li>・定時評議員会の招集の決定</li> <li>・2024年度第一期団体活動支援助成 助成先の決定</li> <li>・2024年度災害時等における救援活動支援助成 助成先の決定</li> <li>・2023年度事業進捗状況の報告</li> <li>・役員（理事）候補について</li> <li>・その他</li> </ul>
2	6月10日	定時評議員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度計算書類、事業報告の承認</li> <li>・役員（理事）の選任</li> <li>・2024年度事業計画及び収支予算書等の報告</li> </ul>
3	6月10日	第2回理事会 (決議の省略による)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表理事（理事長）の選定</li> <li>・代表理事（副理事長）の選定</li> <li>・業務執行理事の選定</li> </ul>
4	10月3日	第3回理事会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度第二期団体活動支援助成 助成先の決定</li> <li>・代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告</li> <li>・2024年度事業進捗状況の報告</li> <li>・その他</li> </ul>
5	2月1日	第4回理事会 (決議の省略による)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度公募型研究助成事業における採択課題の決定について</li> </ul>
6	2月27日	第5回理事会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度事業計画について</li> <li>・2025年度収支予算について</li> <li>・2025年度資金調達及び設備投資の見込みについて</li> <li>・第10回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品の決定について</li> <li>・役員賠償責任保険への加入について</li> <li>・代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告</li> <li>・審査委員会からの答申内容について</li> <li>・その他</li> </ul>

附属明細書に記載する事項無し

以上